

103,965^{km}ってどのくらいの距離?調べてみると、赤道の周りが約4万^{km}ということなので、地球を約2周半する距離であることが分かりました。この距離、実は5月2日現在の市長車(佐世保の特産品などのステッカーが目飛び込んでくる、白いワンボックス型の乗用車)の走行距離なんです。移動中も特産品や観光名所などのPRをしたいと、市長の発案で今の市長車がデビューしたのが平成19年9月。以来、「現場主義」を掲げる市長の行動力に比例して走行距離も延び続け、約3年半後には10万^{km}を超えとなりました。今期もますます距離数が延びていくことを期待しています。(T)



元気な朝ごはんレシピ



ネバネバ丼



- 材料・4人分
- ごはん 600g
 - 納豆 3パック
 - オクラ 10本
 - 温泉卵 4個
 - シソ、ミョウガ 適量
 - 小ネギ、白ごま 1パック
 - なめこ 1本
 - ナス 1本
 - 豚ひき肉 200g
 - すき焼きのたれ 小さじ2
 - めんつゆ(ストレート) 小さじ2



考えていただいた人
西沢裕一郎さん
佐世保北高1年(当時)
温泉卵を割れば味が変わるので二度楽しめます。

- 作り方
- ゆでたオクラを細切りにして、納豆と混ぜる。
 - ナスを細かく切り、豚ひき肉と炒め、すき焼きのたれで味付けする。
 - なめこは、洗って沸騰したお湯に入れ、ひと煮する。
 - シソ、ミョウガ、小ネギは小さく刻んでおく。
 - 丼にご飯を盛り、①と②をのせ温泉卵と③、シソ、ミョウガをのせてネギと白ごまを散らす。
 - めんつゆを上からかける。

- 1人分の栄養価 熱量309kcal
タンパク質22.9g、脂質16.4g、塩分2.4g
- 平成22年度ヘルシークッキングコンテスト一般部門アイデア賞



石垣はひと抱えほどの石を高さ六尺ほど積み上げた割り石積みで、工事の苦心の跡がしのべれます。峠の中ほどに切り石の銘板があり、大正十五(一九二六)年の竣工を告げています。土木機械が普及していない時代、地元農家の人々が人夫となって、畚(縄)を綱状にし、四隅に綱をつけて石などを担う道具を使い、石工さんが近くの採石場で適当な大きさに割った石材を運んだのでしょう。

当時、この冬越峠は、大野方面から柚木経由で世知原と結ぶ唯一の道でした。小山を越える旧峠は難所で、軍港でにぎわう佐世保市街に、竹箒のメゴに野菜やお茶などを入れ、売りに行く

歴史 散歩 第551回

冬越峠 ● 柚木元町

撮影・文 ● 筒井隆義



人々はとても難儀していました。そこで村道として改修が手掛けられることになったのです。

ところが、峠は固い岩盤で、つるはしが頼りの工事ははかどらず、予算も足りなくなりました。この話を耳にした篤志家の松尾良吉氏(当時七十一歳)が、即座に工事費二百五十円を村に寄付し、おかげで大正十五年五月に、いま見るような切り通しの新道が竣工、人々は案々と峠越えができるようになりました。

松尾良吉氏は伊万里の豪商で旧家の出。軍港建設に湧く佐世保に進出し事業を手掛けるかたわら、貧しい農家に農耕用の牛を無償で施したり、九十九島観光振興のため鶴渡越開発など、数多い社会事業、慈善事業をした人です。この当時、柚木に梅の名所づくりをして村の利益にしようと志し、付近を調べていて冬越峠の難工事を知ったので

「佐世保市学校版環境ISO」で子どもたちも頑張っています!
「6月は環境月間」環境保全に取り組みましょう

「佐世保市学校版環境ISO」とは、地球環境に配慮して行動できる「環境市民」を育成するため、小・中学校での環境にやさしい学校づくりを認定し支援する本市の制度です。市では毎年、審査に合格した学校に「認定証」を交付しており、これまでに認定した学校は、本年3月に取得した江上小学校を含めて合計10校となりました。この取り組みにより、現在、多くの子どもたちが環境に配慮した目標やルールなどを定め活動しています。

6月は「環境月間」です。大人の皆さんも家庭や職場で目標を決めて、環境負荷の低減に取り組んでみませんか!

環境政策課 ☎31-6520

江上小の目標

- 水の使用量を把握する!
- 節水の意識を持つ!

わたしたちの取り組み

- ぞうきんはバケツで洗う
- 石けんで手を洗う間は水を止める
- 使用後は蛇口をきちんと閉める
- 手洗い場やトイレ掃除のときは水を出しっ放しにしながら行わない
- 水道メーターのチェックを一週間ごとに行う



市環境部長から認定証を受け取る江上小の児童



学校版環境ISOの中心的な役割を担う環境委員の児童たち

子ども保健課、子ども育成課から 育児・子育て支援 の話



育児は子どもの成長を日々感じることができ、また育児を通して親自身も成長できる素晴らしいものです。しかし育児に悩みはつきもので、周囲に相談できず独りで抱え込むことも多いのではないのでしょうか。本市では、保健師や保育士等の専門スタッフが育児に関する相談や育児援助など、さまざまな育児・子育て支援をしています。また市内3カ所にある「子育て支援センター」では、雨の日も屋内で自由に遊ぶことができます。子育て中の皆さん、ぜひご利用ください!

育児学級

対象 生後2カ月から1歳未満の赤ちゃんとそのお母さん

内容 マタニティ学級を受講したお母さん同士の仲間づくりや先輩ママさんとの交流会を通して、安心して育児ができるよう支援しています

とき 第3、4水曜開催(10~12時)
1月、8月は休み

産後のママサポート事業

対象 出産後6カ月以内のお母さんで、日中に家族等の援助がない人

内容 「産後ママサポーター」が育児や家事の援助、育児相談、健診の付き添いなどをサポートします

※事前に申請が必要です。1時間300円で1日1回(1~3時間)、6カ月間に20時間まで。

子育て支援センター

親子で自由に遊び、子ども同士、親同士も交流できます。保育士等による育児の相談や講座も行っており、親子がともに育つことができる場所として大好評です。

対象 在宅の親子(お子さんが小学校入学前)や妊産婦

場所①子ども発達センター(花園町)
②中部子育て支援センター(市立大黒保育所)
③東部子育て支援センター(市立早岐保育所)
④北部子育て支援センター(市立上相浦保育所)

時間①月曜~金曜(8時30分~18時)
土・日曜、祝日(9時~16時)
②~④月曜~金曜(8時30分~13時30分)
※祝日は除く。

育児サークル・子育て支援グループ

現在、市内におよそ30の育児サークル・支援グループが活動しています。親子で定期的に遊ぶ育児サークルや、読み聞かせを行うサークル、障がいがあるお子さんとその保護者が集うサークルなどがあり、子育てを一緒に楽しむ仲間づくりにも最適です。

育児学級・ママサポート⇒子ども保健課☎24-1111 支援センター・育児サークル⇒子ども育成課☎24-1111